

教育は今

No. 2

「学校評価」で学校改善を図る

「学校評価」実施の背景

日本の経済成長が著しい頃、企業では「2年経ったら再検討、5年経いたら疑え、10年経ったら捨ててしまえ」という理念のもと、目標を定め、それを実現するための経営戦略が講じられました。

この考え方が、教育の世界にそっくり適用できるわけではありませんが、学校も組織体の一つ。そこで行われる教育活動は、点検・評価し、改善していく必要があります。これまで学校は、自己評価を中心に行ってきたましたが、子どもを取り巻く環境は大きく変化してきており、家庭や地域社会との連携がさらに求められています。そこで、教育活動等の成果を検証し、その結果に基づき学校運営の改善・発展を目指す「学校評

価」を進めていくため、平成19年6月、学校教育法が改正されました。

「学校評価」とは

「学校評価」は、安易な学校比較や序列化を目指すものではありません。「開かれた学校」を目指し、学校、保護者、地域の人々との相互関係を深めるため、学校は、情報を積極的に公開・説明していきます。そして、保護者や地域の人たちの意見を聞き、それを汲み取りながら、学校運営の充実・改善を図っていくとするものです。

光市の学校評価

光市では、教育開発研究所が平成18・19年度に、文部科学省から出された「学校評価

ガイドライン」、山口県教育委員会が示した「学校評価ガイドブック」を踏まえて調査研究を行い、教育委員会に提言を提出。これを受けて、今年度から実施しています。

【学校（教職員）が行う自己評価】

「自己評価」は、各学校の実態に併せて、予め設定した目標や具体的な計画に照らして、達成状況や取り組みの適切さについて教職員が評価します。その際、参考資料とするため、保護者や児童生徒に意見を求めます。評価した結果は、「学校だより」やインターネット上で公表します。

【学校関係者（外部）評価】
「学校関係者評価」は、学校評議員、PTA役員、地域の人々等によって行われます。学校の自己評価活動の信頼性や評価結果の客観性を高め、地域の人々が学校運営の現状と課題について共通理解を図り、学校運営の改善が適切に行われるようにすることが目的です。

このように、光市では、学校と学校関係者による二つの評価から、学校改善を図っていきたいと考えています。

特色ある学校づくり



市内小中学校の「特色ある活動」風景をご紹介します。
今回は、島田小学校と周防小学校です。お楽しみに！

上島田小学校

児童数133人



「フリートーク」で聞き合うことのできる子を育てています

塩田小学校

児童数32人



毎年「石城山」に登り、ゲストティーチャーを迎えて「ふるさと学習」に取り組んでいます